

InterFM897

The 243rd Programming Deliberation Committee

第 243 回番組審議会 議事録

開催日 2020 年 10 月 20 日 (火)

出席者：湯川れい子委員長、亀渕昭信委員、西田善太委員、安藤美冬委員、吉田拓巳委員

1、

議題（審議番組）：music is music

放送日時 : 毎週日曜 23:00 – 23:30

DJs : マスヤマコム、牧村憲一、美島豊明

会社からの説明

竹内まりや、大貫妙子、フリッパーズ・ギターなどの制作・宣伝を手がけ、ノン・スタンダードやトラットリアなど数々のレーベルにかかわった音楽プロデューサー、牧村憲一が「日本のシティポップ」をテーマに、それがどこから生まれ、どう育ってきたのか？ミュージシャンを中心とするゲストとともに、掘り下げて語ります。

聞き手は、コンテンツPのマスヤマコム。サウンドロゴは、Corneliusのプログラマ美島豊明。

委員からの意見・感想

審議委員 A

DJ の声のトーンか話し方なのか、少し聞きづらく感じた。テーマ性があるのは良いが、オールドスタイルな見せ方が若い世代には少し渋く、とつつきにくいように思う。ただ、個人的には、音楽史が知れてとても勉強になる番組だった。今、10 代をはじめ若い世代には Podcast が流行っているので、そういった展開があると、より価値が高まるのではないだろうか。

審議委員 B

DJ の個性が欠けていて勿体ない。また、番組を通して、印象に残る部分がまったくなかった。通好みだと感じるが、素人にもわかりやすく、インパクトのあるエピソードがほしい。選曲はどれもかっこよくとても良かった。

審議委員 C

尺を意識してかトークをカットしすぎている印象で、断片的でバラバラ、山が無い。わかっている風に話が進んでいて、大事な説明も省いてしまっているようでもったいない。DJの語りは朴訥だが、音楽史・音楽業に関する数々の知見を持ち、非常に面白いストーリーを持つ人物なので、彼を一年間フィーチャーして、周りの人間の証言を得ながら、その中で音楽を自然と知っていく形がいいのではないか。牧村さん1人で進行する1時間番組にしたほうが良いように思う。

審議委員 D

テンポがいい割に、核心には行きつかないような、中途半端な印象。音楽に精通している人もよくわからなかったのではないか。DJは良い味が出ているので、制作者は、もっとDJを立たせるような工夫をしたり、トークにひっかかりや聞き所をつくる努力をしたほうがよい。トークテーマの目の付け所は良く、おそらく30分では語りきれない部分があると思うので、オーディオブックを作るなど付帯展開もしていくとよいのではないか。

審議委員 E

音楽玄人には「なるほどね」と頷けるトークが多く、面白かった。音楽の歴史を知る教科書のような番組。選曲も面白く、30分のうちに7曲もかかるることは良いことだが、その分トークが薄くなっている気がする。もっと話を深く掘り下げてほしかった。若者にはわかりにくく、若者にも「知らなかった!」「なるほど」という気づきを与えられるような番組になってほしい。

—会社側の回答

番組に対する評価、改善・要望などの意見を真摯に受け止め、より質の高い音楽番組の制作に向け改善を図る。

以上